



●●●● 少女雑誌の部屋から ●●●●

少女雑誌の部屋だより『わすれなぐさ』を手にとっていただきありがとうございます。毎月1回発行しているおたよりですが、毎回少女雑誌にまつわるさまざまな事柄をテーマにしてお届けしております。

今月号では当館が誇る「少女雑誌コレクション」についてご紹介いたします。少女「漫画」雑誌のコレクションとされている方が多いようですが、主に収集しておりますのは漫画誌に移り変わる以前のものです。10代の少女たちの教養や感性を育む存在だった少女雑誌には、当時の時代背景が色濃く反映されており、知れば知るほどおもしろく興味深い世界が広がります。古^{いにしへ}の少女たちに思いを馳せながらご覧いただけますと幸いです。



菊陽町図書館 少女雑誌コレクション



菊陽町図書館では、明治30年代から昭和40年代に発行された少女向け雑誌のうち、主に「連載小説が掲載されているもの」を「少女雑誌」と定義し、少女雑誌（約70誌）とその付録、少女雑誌の流れをくむ少女漫画雑誌、その他関連資料を所蔵しています。対象年齢は、現在の小学校高学年から高校生くらいの少女たちで、その内容は、小説、詩、ファッション、ヘアスタイル、インテリア、料理、芸能、手芸など多岐にわたっていました。現代の文芸誌とファッション誌を合わせたような総合誌であったと言えます。そのため、戦前の文化や児童文学、漫画の黎明期について等の研究をする上でも大変貴重な資料として注目されています。

少女雑誌の歴史

【明治～大正時代】

明治35（1902）年、日本で初めての少女雑誌『少女界』（金港堂書籍）が誕生します。

明治時代の少女雑誌は、「良妻賢母」を育てることを目的として作られていました。大正時代になると、たくさんの少女雑誌が発行され、娯楽中心の楽しい雑誌であることが重視されました。

【昭和時代・戦前】

昭和12（1937）年に日中戦争が始まると、雑誌の中にも戦争に関する記述が少しずつ見られるようになります。昭和16（1941）年の太平洋戦争開戦後は、言論統制やパルプ資源の節約を目的として、出版社や雑誌の統廃合がすすめられました。その結果、昭和19（1944）年には、少女雑誌は『少女の友』と『少女倶楽部』の2誌だけになります。それらの雑誌も戦況の悪化に伴い、ページ数は減らされ、紙質は悪くなりました。

【昭和時代・戦後】

戦後、次第に雑誌の数も増えていきます。戦時中と同じく紙不足の状況は続きましたが、情報入手のために雑誌はとても大切な存在でした。テレビ出現の影響により、昭和30年代になると次第に漫画の占める割合が増え、漫画雑誌へと移り変わっていきます。